

日露関係の未来を担うロシアの若手研究者が来日 19～36歳の10名の専門家 都内でシンポジウムも

2001年に行われた外務省の意識調査では、ロシアに『親しみを感じている』と答えた日本人は10%、『親しみを感じない』人は55%でした。また10年後の日露関係の予想を質問したところ、「現在より良好」32%、「現状のまま」が48%という結果でした。それから実際に10年が経った今、ロシアでは書店に村上春樹作品が並び、モスクワで行われたAKB48のコンサートへ何百人もの熱狂的ファンが押しかけるほどの日本ブームとなっています。ロシアのイメージもまた変化しつつあります。

国際交流基金では、3月上旬の約1週間、19-36歳の人文・社会科学系のロシア人日本研究者を招へいして、国内のロシア関係者や日本研究者と交流・意見交換を行います。来日日程の最後に実施するシンポジウムでは第一線で活躍する日露の研究者をパネリストに迎え、日露の新しいイメージについて検討します。隣国として長い交流の歴史をもつ両国において、互いのイメージが誰によってどのように形成され、また今も形成されつつあるのか、日露の新しいイメージを探ります。

若手招へい者

名前	所属	専門分野
クジミンコフ、ヴィクトル	ロシア科学アカデミー極東 研究所	日本外交
ヤロヴェンコ、ヤロスラフ	モスクワ国際関係大学	安全保障分野における日・EU 関係
コヴァルチュク、マリーナ	極東国立総合大学東洋学大学	明治時代における日英・日露関係
ドプリンスカヤ、オリガ	ロシア科学アカデミー東洋学研究所	日・中央アジア関係
ガチンスキー、アンドレイ	モスクワ国際関係大学	日本外交における反テロ戦略
フィルソヴァ、ヴァルヴァーラ	ロシア科学アカデミー図書館アジア・アフリカ文学部	日本の外国人コミュニティ
スーハレヴァ、ダリヤ	ノボシビルスク国立大学	日本人の非言語コミュニケーションにおける情緒的アスペクト
マリナ、アンナ	国立高等経済大学	個人の世界観に文化が与える影響
ベリヤーエフ、アレクサドル	ロシア国立人文大学	日本の文献：歴史・理論・書道の実践
コノヴァレンコ、ニコライ	サンクトペテルブルク国立大学	日本語方言の表音表記

シンポジウム

「日本とロシア：互いのイメージの変遷と未来 —ロシア若手研究者が語る新しい日露の姿」

日時 | 2011年3月11日 (金) 17:00～19:40 (16:30 開場)

場所 | 国際交流基金 J F I C さくらホール (東京都新宿区四谷4-4-1)

アクセス | 東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅 1番出口から徒歩3分

定員 100名、日露同時通訳付き、参加費無料

申込方法 | お名前 / ご所属 / ご連絡先を明記の上、nichiro-image@simul.co.jp までご連絡ください。

基調講演

ワシーリー・モロジャコフ (ロシア科学アカデミー東洋学研究所主任研究員)

2009年『後藤新平と日露関係史』でアジア太平洋大賞。ロシア語の著書に『ロシアと日本 戦争か平和か—知られざる日露関係史 1929～1948年』など。

沼野 充義 (東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)

専門は、ロシア、ポーランド文学。2002年、『徹夜の塊』でサントリール学芸賞。2004年、『ユートピア文学論』で読売文学賞。

パネリスト

ドミトリー・ストレリツォフ (モスクワ国際関係大学教授)

2008年よりモスクワ国際関係大学アジア・アフリカ学科長。現ロシア日本研究者協会会長。研究分野は現代日本の政治システム、日本外交、日本行政システム、ロシアのアジア政策など。

鴻野 わか菜 (千葉大学・文学部准教授)

専門はロシア文学・美術。共著書に『幻のロシア絵本 1920-30年代』、『イリヤ&エミリア・カバコフ 私たちの場所はどこ?』など。

お問い合わせ：国際交流基金 日本研究・知的交流部欧州・中東・アフリカチーム (担当：藤原)

電話 03-5369-6071 FAX: 03-5369-6041 E-mail: oca@jpf.go.jp